KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS
RESEARCH INSTITUTE
FOR JAPANESE TRADITIONAL MUSIC

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

令和６年度 後期

伝音セミナー

―日本の希少音楽資源にふれる―

「日本伝統音楽の講座に参加するのは初めて」という方にも、気軽に受講いただけるセミナーです。

聴講無料・申込不要／定員 各回50名

開催時間：各回とも14:45～16:15

会場

京都市立芸術大学
伝音セミナールーム

京都市下京区下之町57-1（Ａ棟１階）

- 地下鉄烏丸線・JR各線・近鉄京都線「京都」駅下車 徒歩６分
- 京阪電車「七条」駅下車 徒歩10分
- 市バス 4・7・16・81・205・南5号系統「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ

構内に駐車場はございません。
各種公共交通機関をご利用のうえご来場ください。

第一回　11月28日(木)

文楽人形の〈型〉は不変か？：
「うしろぶり」に見る表現のバリエーション

講師：**中野 ふくね** 大学院美術研究科 博士(後期)課程 美術専攻 芸術学領域２年

第二回　12月19日(木)

平安朝の笛吹く女性：
“虫めづる姫君”の音楽

講師：**根本 千聡** 日本伝統音楽研究センター特別研究員

第三回　令和7年 1月9日(木)

金剛謹之助・金剛巌の謡曲レコード

講師：**大西 秀紀** 日本伝統音楽研究センター客員研究員

第四回　1月23日(木)

瀬戸口藤吉の行進曲：その人生と作曲法

講師：**安宅 一平** 大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻２年

第五回　1月30日(木)

浪曲語りの声と技法

講師：**花田 開** 大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻２年

第六回　2月6日(木)

内モンゴルにおける大正琴の変化(仮)

講師：**阿拉 騰沙** 大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻２年

第七回　2月20日(木)

「大津絵節」の起源に迫る：
江戸の俗謡と絵画の接点について

講師：**鈴木 堅弘** 日本伝統音楽研究センター特別研究員

第八回　3月27日(木)

大正から昭和戦前期にみる音楽療法実践史

講師：**光平 有希** 日本伝統音楽研究センター特別研究員

第四回・第五回・第六回は修士学位取得にかかる公開プレゼンテーションです。

主　催 ｜ 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
問合せ先 ｜ 京都市立芸術大学事務局
共創テラス・連携推進課
TEL 075-585-2006（平日 午前8時30分～午後5時15分）
E-mail public@kcua.ac.jp
大学ウェブサイト https://kcua.ac.jp/

KYOGEI TERRACE

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

令和６年度 後期

伝音セミナー

ー日本の希少音楽資源にふれるー

第一回　11月28日(木) 14:45～16:15

文楽人形の〈型〉は不変か？：「うしろぶり」に見る表現のバリエーション

講師：中野 ふくね　大学院博士(後期)課程 美術専攻芸術学領域2年

人形浄瑠璃文楽には、〈型〉と総称される人形の定型化された動作が存在しています。女方の人形が背中を見せて反り返り、嘆きの頂点を表現する動作は「うしろぶり」と呼ばれる代表的な型のひとつで、浄瑠璃の聴きどころとなるクドキの場面で舞台を彩ってきました。文楽の人形遣いたちは、この「うしろぶり」をどのように表現してきたのでしょうか。細部の比較を通じて、分析を試みます。

第三回　令和7年 1月9日(木) 14:45～16:15

金剛謹之助・金剛巌の謡曲レコード

講師：大西 秀紀　日本伝統音楽研究センター客員研究員

大正元年に京都で生まれたラクダ印オリエントレコードには、さまざまな京都の芸能が記録されました。中でも金剛謹之助・巌の謡曲レコードは、謡文化が盛んな地のレコード会社にとって主力商品だったといえます。今回は「羽衣」「松虫」「熊野」「鉄輪」「鶴亀」「三井寺」「猩々乱」「俊寛」「望月」「巻絹」など、いずれも短いものばかりですが、111年前の彼らの録音をお聴きいただきます(曲目を変更・追加する場合があります)。

第五回　1月30日(木) 14:45～16:15

浪曲語りの声と技法

講師：花田　開　大学院音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻2年

浪曲(浪花節)は、日本音楽の枠組みにおいて「語り物」に位置付けられ、想像を掻き立てる登場人物や風景の描写によって、聞き手を物語世界へと引き込む力をもつ芸能です。このような表現が生まれる背後には、浪曲語りのどのような声や技法があるのかを、具体的に示してみたいと思います。

(修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション)

第七回　2月20日(木) 14:45～16:15

「大津絵節」の起源に迫る：江戸の俗謡と絵画の接点について

講師：鈴木 堅弘　日本伝統音楽研究センター特別研究員

「大津絵節」とは幕末から明治期かけて全国各地にて唄われた流行り歌です。今回は、大津絵節の音源を視聴すると共に、江戸時代に実際に唄われていた大津絵節の内容(洒落・地口・遊芸)を同時代のテクストを用いて紹介します。また、江戸期を代表する民衆絵画である大津絵と江戸の俗謡がどのような文化的な繋がりをもって育まれてきたのか、大津絵節の起源にも迫ってみたいと思います。

第二回　12月19日(木) 14:45～16:15

平安朝の笛吹く女性：“虫めづる姫君”の音楽

講師：根本 千聡　日本伝統音楽研究センター特別研究員

王朝文化の最盛期、雅楽が盛んに催されていた宮廷社会では、笛はもっぱら男性が演奏する楽器でした。しかし、そんな時代にありながら、笛演奏に堪能なことで知られた女性音楽家が二人います。笛の名手として名を馳せた大神基政の娘「夕霧」と、音楽に秀でた家筋に連なる藤原宗輔の娘「若御前」です。今回は、あまり多いとはいえない両名に関する資料を整理し、具体的にどのような特徴をもつ音楽家であったのか、楽曲の推定復元をまじえつつ検討します。

第四回　1月23日(木) 14:45～16:15

瀬戸口藤吉の行進曲：その人生と作曲法

講師：安宅 一平　大学院音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻2年

近代における行進曲の大家である瀬戸口藤吉(1868-1941)。彼の代表作である『軍艦』は、今もなお海上自衛隊の音楽隊によって演奏されていますが、一般的には忘れ去られた作曲家といえるでしょう。瀬戸口の人生や作品、とりわけ行進曲を紹介しながら、彼の全貌に迫ります。

(修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション)

第六回　2月6日(木) 14:45～16:15

内モンゴルにおける大正琴の変化(仮)

講師：阿拉 騰沙　大学院音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻2年

大正琴は、日本の大正時代に発明され、その時代の名称から名付けられた弦楽器で、独自の形状と音響特性を持っています。近年、中国の内モンゴルのオルドス地方で非常に人気があり、モンゴル族の音楽に合わせるために、大正琴の調弦法と演奏法が変化しています。この研究では、大正琴がどのように内モンゴルに輸出されたのか、また大正琴がモンゴル音楽とどのように融合してきたのかについて発表します。

(修士学位取得にかかる公開プレゼンテーション)

第八回　3月27日(木) 14:45～16:15

大正から昭和戦前期にみる音楽療法実践史

講師：光平 有希　日本伝統音楽研究センター特別研究員

日本の医療現場では、明治後期から音楽療法実践が本格始動しました。精神疾患への治療からはじまった実践の模索は、大正から昭和戦前期には呼吸器や循環器疾患への治療、さらには疼痛ケアに音・音楽が用いられるなど、さらに拡がりをみせます。今回は、当時の治療で使われた音源とともに、戦前期日本における音楽療法実践の展開を紹介します。